

1 本園の教育目標

やさしくたくましい子ども

・心身ともにいきいきとした子ども ・自ら遊びをつくりだす子ども ・自分も友達も大切にしている子ども

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

笑顔いっぱい みんな友達

～人との触れ合いや関りを通して～

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目の達成及び取組状況	結果	理由
特別支援教育の充実	A	一人ひとりの子供理解に努め、保護者との連携を大切にしてきた。個々の発達段階を職員間で共通理解し手だてを考えてきた。保護者とも連携しながら子供達の成長につなげることができた。
保幼小中の交流	B	近隣の保育園や幼稚園や小学校との交流を年度当初に計画し取り組んできた。回数は計画通りには進まなかったが、交流をすることでよい刺激になり、園児や幼稚園のことを知ってもらう機会となった。
未就園児事業の充実	B	地域の未就園児親子が幼稚園に気軽に来ることができるよう0歳児教室、2・3歳児教室、園庭開放を行ったが、継続しての利用に繋がりにくかった。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	園児数が少ないため、一人ひとり個々に応じた関わりができ、子供自身が向上心をもって取組む姿勢に繋がった。 これからも、幼児理解を深め、職員で共通理解を図りながら日々の保育を進めていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育の充実	個々の子供の姿や育ちについて丁寧にとらえ、関係機関との連携や保護者との共通理解を図りながら、職員全員でより充実した支援体制を考え、推進する。
保幼小中の交流	近隣の保育園や幼稚園や小学校との交流を計画的に取り組んだり、中学校ブロックでの園児や教師が交流できる機会を大切にしたりし、保護者にも発信することで、連携へと繋げる一歩を踏み出せるようにする。
保育の充実	昨年度の反省と少人数の利点と課題を念頭に置き今年の子供の姿から行事や保育の見直しを行い、保育の充実や、子供の成長や体づくりにつなげる。

◎3.4. の評価結果の表示方法

A十分達成されている B達成されている C取り組まれているが成果は十分でない D取組が不十分である